

出穂後高温時における適正な水管理について

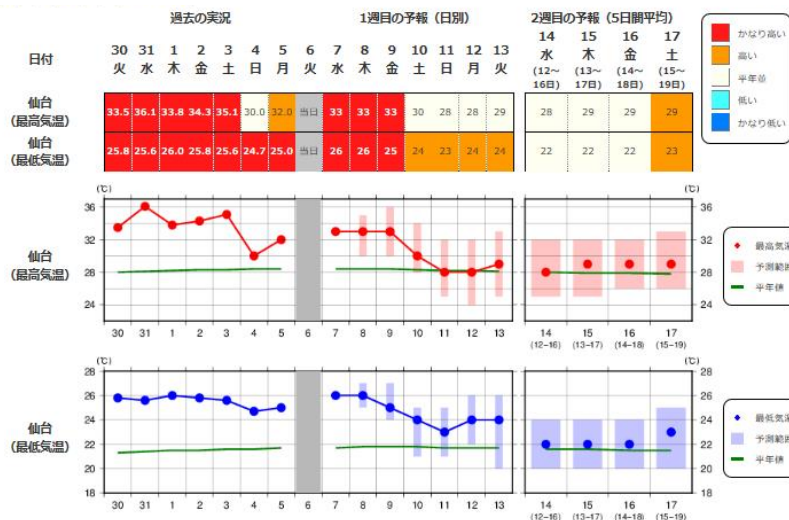
宮城県米づくり推進本部
令和元年8月6日

気温の高い日が続くと見込まれており、品質低下が懸念されます。適正な水管理に努めましょう。

- 7月末から気温が平年よりかなり高い状態が続いており、予報では8月13日頃までの日最低气温が23℃以上と平年より高い、と見込まれています。
- 本県の水稲は、平年より1日早い8月2日（県全体の平均）に出穂期に達しており、穂揃期も平年より早まるものと思われます。出穂後に最高気温や夜温が高い状態が続くと、稲体の消耗による登熟不良や白未熟粒の発生等により品質の低下が懸念されます。特に出穂後20日間の高温条件等で基部未熟粒、出穂後10日間の最高気温が高い場合に胴割粒の発生が多くなる傾向があります。
- 高温登熟による品質低下を防止するためには「昼間深水・夜間落水管理」が有効ですが、用水の確保が難しい状況においては「走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ水管理」を行うことにより白未熟粒や胴割粒の発生が軽減されます。なお、落水時期は出穂後30日前後としてください。

1 気象予報について

気象庁ホームページから、最新の週間天気予報、2週間気温予報、東北地方1か月予報を確認してください。以下は、8月6日11時現在の2週間気温予報（仙台）です。



2 出穂時期の比較（8/5現在）

| 区分 | 出穂始期（5%） | 出穂期（50%） | 穂揃期（95%） |
|-----|----------|----------|----------|
| 本年 | 7月30日 | 8月2日 | — |
| 前年 | 7月28日 | 7月31日 | 8月9日 |
| 平年 | 7月31日 | 8月3日 | 8月10日 |
| 平年差 | 1日早い | 1日早い | — |

※平年値は平成21～30年の10か年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8か年の平均値を用いた。

3 高温時の水管理について ～地域における用水の確保状況を勘案し、適切な水管理を～

次の（1）または（2）により、本田内の水管理を徹底してください。

（1）昼間深水・夜間落水管理

晴天等の高温時において昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする水管理方法である。一日の用水温の推移を見ると、気温よりも数時間遅れて水温の低下が見られるので午前9～10時頃に入水し、気温が用水温を下回り始める午後4時頃に落水するのが望ましい。

（2）走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ保水管理

出穂後の水管理を保水管理で維持することによって、昼間深水・夜間落水管理ほどの効果は得られないが、湛水管理に比べれば乳白粒や胴割粒の発生が軽減できる。